



甲状腺機能亢進症

■ 病気の概要

甲状腺は喉の近くにあり、代謝を調節するホルモンを分泌する臓器です。甲状腺機能亢進症は、このホルモンが過剰に分泌され、体の代謝が異常に高まる病気です。中高齢の猫に最も多い内分泌疾患の一つで、多くは良性の腫大（過形成）が原因です。「食欲があるのに痩せていく」のが典型的なサインで、放置すると心臓・腎臓・血圧に負担がかかります。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・ 食欲旺盛なのに体重が減る
- ・ 水をよく飲み、尿量が増える（多飲多尿）
- ・ 落ち着きがない・興奮しやすい・怒りっぽくなる
- ・ 嘔吐・下痢
- ・ 毛づやが悪くなる・毛玉が増える
- ・ 心拍数が速い・呼吸が荒い

■ どんな検査をするの？

- ・ 血液検査（T4・FT4などの甲状腺ホルモン値）
- ・ 頸部の触診・超音波検査（甲状腺の腫大の確認）
- ・ 血圧測定（高血圧を合併することが多い）
- ・ 尿検査・腎機能評価（腎臓病が隠れていないか）
- ・ 心臓の評価（心エコー・心電図）

■ 治療方法

内科治療

- ・ チアマゾール（抗甲状腺薬）の内服
- ・ 低ヨード療法食
- ・ 高血圧・心臓への合併症の管理
- ・ 定期的なホルモン値・腎機能のモニタリング

外科治療

- ・ 甲状腺摘出術（根治を目指す治療）
- ・ 手術前に内科治療で状態を安定させてから実施

■ ご家庭で気をつけること

- ・投薬を毎日確実に続ける
- ・体重・食欲・飲水量を記録する
- ・定期的な血液検査でホルモン値と腎機能を確認する
- ・血圧の管理（動物病院での測定）

■ よくある質問

Q. 「痩せているのに食欲旺盛」は病気ですか？

A. 甲状腺機能亢進症の典型的なサインです。特に中高齢の猫では検査をお勧めします。

Q. 完治しますか？

A. 甲状腺摘出術で根治が期待できます。薬（内科管理）でも良好にコントロールできます。生活に合わせて選べます。

Q. 治療を始めると腎臓が悪くなると聞きました

A. 亢進症では腎臓病が隠れていることがあり、治療で代謝が正常に戻ると腎臓病が表面化することがあります。腎機能を見ながら治療を調整します。

Q. 薬は一生必要ですか？

A. 内科管理では継続が必要です。手術で根治できれば薬が不要になることもあります。

■ なつ動物病院での診療について

当院では血液検査によるホルモン値の評価と、内科治療（投薬・療法食）・合併症の管理を行います。手術が必要な場合も対応します。「中高齢の猫で、よく食べるのに痩せてきた」という場合はご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください